

法改正の2022年までに！ オンライン授業の延長

私たちは、RYT 資格をご検討の方には2022年2月までのご入学をお勧めしています。

(当校では3年間の受講猶予有)

といいますのも、2022年施行に向け、ヨガライアンスがルールをより厳しく改定しました。

このルールに基づき、各ヨガインストラクター養成団体は、ルールの変更と受講料の値上げを検討しています。

私たちの学校も現行のルールと授業料で提供できる期間に、皆様にはご入学を検討いただきたいと考えております。

※現ルールでの入学生は2022年2月以降の卒業になっても現ルールを適応をいたします。

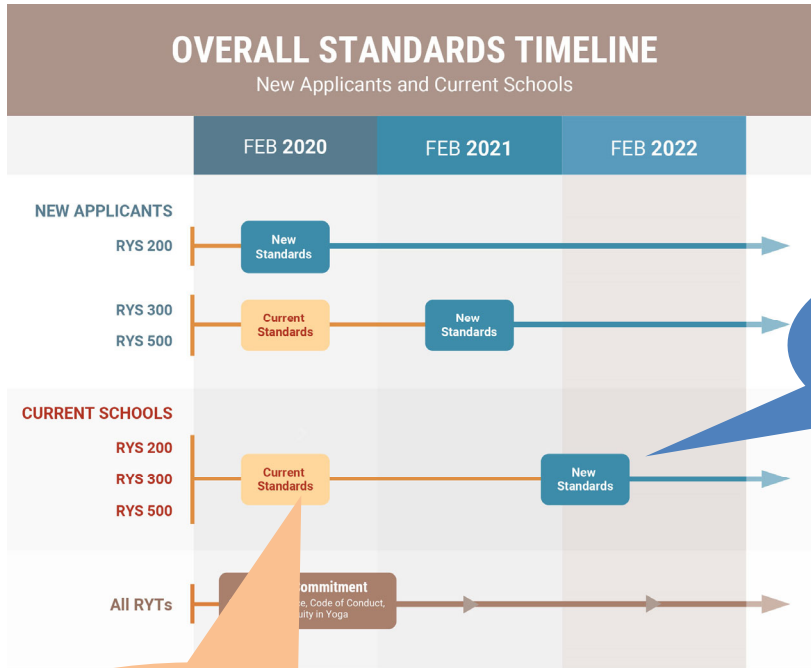
オンライン授業も2021年1月以降も認められていますので、ステイホームの時間に資格取得を目指しましょう！

ヨガライアンスのルールが 進化します

ヨガライアンス認定校が約20年前に設立されて以来、業界は劇的に進化しています。近年、全米ヨガライアンス協会は資格をサポートする基準も進化する必要があると考え、2020年～2022年にかけて RYT200 の必須カリキュラムを追加することを決めました。RYS300 や RYT500 についても随時カリキュラムの追加を検討しています。

スケジュール

新しい RYT 200 申請者は、2020 年 2 月から新しい基準に基づいて申請します。学校が新しい申請者であるか、既存の RYS 200 であるかによってスケジュールが異なります。



2022 年 2 月以降の入学者は新しいカリキュラムで学びます。

当校で既存のカリキュラムで入学した RYT200・RYS300・RYT500 申請者は 2021 年中に申請することをお勧めします。

Applying for YA credentials for the first time under current YA standards (as of respective June 2019 and 2020 announcements*)
 *Current standards (as of May 2019 prior to any announcement)
 *Current standards (as of June 2019 and effective beginning February 2020)
 *Current standards (as of June 2020 and effective beginning February 2021)

具体的に何が変わるか

1. 教室で学ぶ時間が増える

RYT200 規格の大幅な変更には以下が含まれます。

- ・ これまでにはなかった最大 40 時間の教室をオンラインで配信できるようにします。
- ・ 200 時間のうち、教室で学ぶ時間が最低 160 時間必要です。

技術面、実技練習

既存の規定

100 時間（このうち 75 時間は講師との対面）

新しい規定

75 時間が教室で学ぶ時間

解剖学や生理学、科学

既存の規定

20 時間（このうち 10 時間は講師との対面）

新しい規定

最低 30 時間（20 時間はオンライン可）

歴史、哲学、道徳

既存の規定

30 時間（このうち 20 時間は講師との対面）

新しい規定

最低 30 時間（20 時間はオンライン可）

指導技術、指導力向上、練習、自由選択ほか

既存の規定

50 時間（このうち 20 時間は講師との対面）

新しい規定

最低 65 時間は教室で学ぶ時間

合計

既存の規定

125 時間の講師との対面時間 + 55 時間の講師対面による自由選択の時間 + 講

師対面によらない自由時間 20時間 =200時間

新しい規定

160時間の教室で学ぶ時間 + 40時間の教室で学ぶ時間 or オンライン受講

2. 署名を求められる

RYT 資格保持者に倫理的同意書に署名するよう求めます。この倫理的同意書への署名は、2020年2月から始まる RYT（新規および更新）に求められます。

3. まとめ

このような規定を当校の RYT200 受講ルールに当てはめると、2022年からは、プラス32時間の授業を受ける必要が出てきます。当校の換算では、授業9コマ分が追加されることとなります。しかしながら、座学の40時間分はオンラインでの受講を許可されます。そう考えると、オンライン授業を選択する場合は、学校に滞在する時間が減るということになりますね。※現行 RYT200=48 単位、新ルール RYT200=57 単位（座学の11単位分はオンライン受講可）

当校は、より広いニーズにお答えするため、出来る限り速やかにオンライン授業ができるような体制を構築していきます。また、オンライン授業に参加出来ない方に向けて、教室で受けてもらえる幅広いカリキュラムの展開を考えています。